

八尾高同窓会など

中学生に名物カレーを



新型コロナウイルスの影響で困窮するひとり親世帯の中学生の食生活を支援しようと、府立八尾高校同窓会と学生食堂の運営者らが、レトルト食品「八尾きつね山カレー」

「880食分を八尾市に寄贈した。寄贈したレトルト食品はコロナ禍で休業を余儀なくされた学食を救おうと、同窓会などが「学食ありがとうプロジェクト」として企画。学食運営者や食物研究部の生徒らが地元食材である小松菜とチキンのグリーンカレー、トマトとポークのスパイシーカレーの2種類のレシピを考案し、美術部の生徒が商品パッケージをデザインして商品化した。市は令和2年10月から市のふるさと納税の返礼品に採

用。市観光協会では新たな八尾土産として1食500円で販売されており、これまで約1万2千食が売れる新名物に育った。今回の寄贈はカレーの売り上げで得た利益を市に還元する目的もあるという。学食を運営する濱本行則さんは自慢のカレーについて、中学生らに「がっつり食べてもらえれば」と話し、同窓会の藤田博久会長（元池田泉州ホールディングス社長）は「次は（八尾特産の）若ごぼうや枝豆などを使った商品ができれば」とさらなる意欲を示している。

「がっつり食べて」市に880食分寄贈

大松桂右市長（左）にレトルトカレーを寄贈する府立八尾高校同窓会の藤田博久会長（右）
（西川博明撮影）